

令和6年度

東洋学園高等専修学校教育自己診断アンケート

調査結果報告書

令和7年5月1日
学校法人 東洋学園
東洋学園高等専修学校

<調査の概要>

1. 調査の名称

- 『令和6年度 学校教育自己診断アンケート』

2. 調査の目的

- 教育活動全般をはじめ学校運営・施設・設備の整備等現状について自己診断し、今後の教育活動について短期・長期的計画を立て改善と推進に資する。

3. 調査の方法

- 『無記名評価スケール調査法』

4. 調査対象期間

- 『令和6年4月1日～令和7年1月31日』

5. 調査の実施者

- 東洋学園高等専修学校 学校教育自己診断調査係（運営委員会）

6. 調査対象人数

- 生徒・・・147名
- 保護者・・・147名
- 教職員・・・17名

7. 質問項目

- 生徒（15項目）
 - 学校生活・学校活動に関する質問
- 保護者（14項目）
 - 教育活動等に関する質問
- 教職員（34項目）
 - 教育活動・学校運営・学校経営に関する質問

令和6年度 学校教育 自己診断アンケート集計（生徒）

	診断内容	A				B				C				D			
		そう思う				どちらかと言えばそう思う				どちらかと言えばそう思わない				そう思わない			
		1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体
1	学校生活は楽しい。	58.8	26.7	28.3	38.7	33.4	55.5	54.4	47.3	3.9	6.7	13.0	7.7	3.9	11.1	4.3	6.3
2	学校は、資格取得や検定試験の合格に力を入れている。	45.1	28.9	47.8	40.8	35.3	62.2	45.7	47.2	17.6	6.7	4.3	9.9	2.0	2.2	2.2	2.1
3	学校は、落ち着いて学習できる環境である。	45.1	20.0	23.9	30.3	45.1	46.6	45.7	45.8	9.8	26.7	23.9	19.7	0.0	6.7	6.5	4.2
4	学校は施設・設備について、日々整備・点検を行い学習環境の改善に努めている。	41.2	20.0	26.1	29.6	47.0	53.3	36.9	45.7	9.8	20.0	19.6	16.2	2.0	6.7	17.4	8.5
5	学校は、事件・地震・火災などに備えて、避難訓練などを実施して生徒の安全に注意をはらっている。	68.6	51.1	39.1	53.5	29.4	40.0	43.5	37.3	2.0	8.9	15.2	8.5	0.0	0.0	2.2	0.7
6	学校は、基本的な生活習慣を身に着ける取り組みをしている。	51.0	31.1	32.6	38.7	45.0	53.4	39.2	45.8	2.0	11.1	23.9	12.0	2.0	4.4	4.3	3.5
7	相談や授業の質問等、先生に話しやすい。	45.1	26.7	28.3	33.8	41.2	53.3	41.3	45.0	5.9	13.3	17.4	12.0	7.8	6.7	13.0	9.2
8	先生は、学習で努力したことを認めてくれる。	70.6	37.8	37.0	49.3	29.4	55.5	45.6	43.0	0.0	6.7	15.2	7.0	0.0	0.0	2.2	0.7
9	先生は、生徒のプライバシーを守っている。	51.0	44.4	28.3	41.5	43.1	46.7	28.2	39.5	5.9	6.7	23.9	12.0	0.0	2.2	19.6	7.0
10	専門教科は実習も充実していてわかり易い。	52.9	60.0	43.5	52.1	45.1	28.9	50.0	41.6	0.0	6.7	4.3	3.5	2.0	4.4	2.2	2.8
11	将来の進路や生き方について、進路学習で考えたり学んだりする機会がある。	23.0	57.8	39.1	52.8	31.3	37.8	47.9	38.8	5.9	4.4	8.7	6.3	2.0	0.0	4.3	2.1
12	命の大切さや人権を学ぶことができる。	60.8	40.0	37.0	46.5	37.2	35.6	49.9	40.9	2.0	11.1	10.9	7.7	0.0	13.3	2.2	4.9
13	社会のルールについて学ぶ機会がある。	52.9	40.0	50.0	47.9	41.2	44.5	37.0	40.8	5.9	11.1	8.7	8.5	0.0	4.4	4.3	2.8
14	年間を通していろいろな行事がある。	76.5	48.9	60.9	62.7	21.5	35.6	28.3	28.2	2.0	13.3	4.3	6.3	0.0	2.2	6.5	2.8
15	私はこの学校で学ぶことができて良かったと思う。	62.7	31.1	37.0	44.4	31.4	53.3	47.8	43.7	3.9	8.9	10.9	7.7	2.0	6.7	4.3	4.2

※ 単位は%

● 生徒アンケートからの分析

① 項目 1～5 (授業・学校生活)

◇ 学校生活全般において肯定的な意見が全体で 70～80%以上を占めており、生徒にとって学校生活が実りあるものであることが読み取れる。ただ、昨年の調査に引き続いて「落ち着いて学習できる環境」、「学校施設・設備」に関する項目の肯定的な割合が 75%程度であることから、教員間で日々の生徒たちの様子を一層注視し、安全安心と感じられる環境を整えていく必要がある。

② 項目 6～9 (生活指導)

◇ 「先生は、学習で努力したことを認めてくれる」という項目では全体で 90%以上が肯定的な評価をしており、生徒と教員の信頼関係がうまく構築されている部分がかがえるものの、「先生は、生徒のプライバシーを守っている」という項目に関して、3年生の 40%以上が否定的な評価をしている。これに関しては重く受け止め、より一層生徒のプライバシー保護に努めなければならない。

③ 項目 10 (専門教科)

◇ 専門教科においては 90%強の生徒が肯定的に捉えているが、現状に満足せず、高等専修学校が期待される技術教育・専門教育の充実を促進する。生徒が専門的な学びについて更に興味関心を持てる内容の提供を継続する意識をもって取り組む。

④ 項目 11 (進路)

◇ 進路指導面について 90%以上の生徒が肯定的に捉えている。近年の進路決定状況なども鑑みても、自らの将来を早い段階から真剣に考え進路実現に向かう生徒が多い。令和 6 年度より、就職求人票の閲覧をデータベース化し、インターネット環境さえあれば閲覧できるよう整備した。これによって家庭において保護者と共に求人を探すことが可能となり、生徒と保護者の意見の相違が少なくなった。

⑤ 項目 12～13 (人権・公共性)

◇ 人権教育においても、1年生から段階的に教育計画を実行しており、90%以上の生徒が人権について学び・考える機会を肯定的に捉えている。全ての生徒において適切な人権感覚と、公共性を身につけていくことが今後も重要である。

⑥ 項目 14～15 (行事・学校評価)

◇ 年間を通して行われる行事について肯定的な意見が 90%を超えている。現状に拘泥することなく、中身の充実に重きをおき、生徒が「楽しい」と感じられる行事の充実を図る。
◇ 学校全体についての評価として、「私はこの学校で学ぶことができて良かった」という質問項目において 80%以上の生徒が肯定的である。しかしながら 10%強の生徒が否定的である事実から、どのような観点から否定的な意見が出ているのかをさらに分析し改善する必要がある。

令和6年度 学校教育自己診断アンケート集計(保護者)

	診 断 内 容	A				B				C				D			
		そう思う				どちらかと言え ばそう思う				どちらかと言え ばそう思わない				そう思わない			
		1 年	2 年	3 年	全 体	1 年	2 年	3 年	全 体	1 年	2 年	3 年	全 体	1 年	2 年	3 年	全 体
1	子どもは、毎日楽しく登校している。	56.5	38.5	50.0	50.0	26.2	46.1	33.3	33.4	13.0	15.4	11.9	12.8	4.3	0.0	4.8	3.8
2	子どもは、授業が楽しくわかり易いと言っている。	37.5	38.5	33.3	35.4	33.4	30.7	50.0	41.8	20.8	30.8	11.9	17.7	8.3	0.0	4.8	5.1
3	子どもは、学校に友達がいると言っている。	66.7	69.2	64.3	65.8	20.8	15.4	30.9	25.3	4.2	15.4	2.4	5.1	8.3	0.0	2.4	3.8
4	先生は、子どもを理解し、親身になって指導している。	68.2	69.2	47.6	57.1	22.8	15.4	35.8	28.6	4.5	15.4	9.5	9.1	4.5	0.0	7.1	5.2
5	先生は、子どもの評価を適切・公平に行っている。	50.0	38.5	51.2	48.7	29.2	53.8	26.9	32.1	12.5	0.0	14.6	11.5	8.3	7.7	7.3	7.7
6	学校は、ホームページや説明会等で、保護者に教育方針をわかり易く伝えるよう努めている。	50.0	38.5	42.9	44.3	25.0	53.8	42.8	39.2	16.7	0.0	11.9	11.4	8.3	7.7	2.4	5.1
7	学校は、保護者の相談に適切に応じている。	29.2	23.1	59.5	44.3	41.6	53.8	28.6	36.7	25.0	23.1	7.1	15.2	4.2	0.0	4.8	3.8
8	学校は、落ち着いて学習できる環境である。	54.2	46.2	38.1	44.3	33.3	38.4	47.6	41.7	8.3	15.4	14.3	12.7	4.2	0.0	0.0	1.3
9	学校は、子どもに人権を尊重する意識を育てよう努めている。	41.7	46.2	42.9	43.0	25.0	23.0	40.4	32.9	25.0	30.8	11.9	19.0	8.3	0.0	4.8	5.1
10	学校は、進路について子どもの適正に応じた指導に努めている。	37.5	38.5	64.3	51.9	41.6	46.1	23.8	32.9	16.7	15.4	9.5	12.7	4.2	0.0	2.4	2.5
11	学校は、家庭との連携や意思疎通を積極的に行い、子どもの健全育成に努めている。	23.0	23.1	52.4	41.8	45.9	69.2	30.9	41.8	8.3	7.7	11.9	10.1	12.5	0.0	4.8	6.3
12	学校は、子どもに関する個人情報保護に努めている。	62.5	30.8	57.1	54.4	20.8	46.1	35.8	33.0	12.5	15.4	7.1	10.1	4.2	7.7	0.0	2.5
13	学校が保護者に出す文書・事務連絡等はわかり易く適切である。	50.0	46.2	59.5	54.4	37.5	46.1	33.4	36.7	8.3	7.7	7.1	7.6	4.2	0.0	0.0	1.3
14	学校の生徒指導方針について理解している。	45.8	30.8	54.8	48.1	41.7	53.8	38.0	41.7	4.2	7.7	4.8	5.1	8.3	7.7	2.4	5.1

※ 単位は%

● 保護者アンケートからの分析

① 項目 1～3・8 (授業・学校生活)

- ◇ 生徒が登校することに対して肯定的であると、80%以上の保護者が評価している。これに関しては、生徒が登校渋りなどをせずに自発的な登校をしていると受け止められる。しかし、反対に10%強の保護者が否定的評価であることも無視できない。全教員で問題意識を持ち、生徒一人ひとりに目を向け、問題の解決を図る必要がある。
- ◇ 授業における評価では、「わかりやすい」という項目において、約2割の保護者が否定的評価であった。生徒の習熟度を勘案してより「わかりやすい」授業展開を模索する必要がある。

② 項目 4～7・11・13 (生徒理解・情報提供)

- ◇ 全般的に80～90%の肯定的評価を得ている。これについては本校の実践する「ひとりひとりを大切に」という目標と取組がある程度実を結んでいる。情報の提供方法については **google classroom** をさらに有効活用していく余地があり、改善の余地はある。

③ 項目 9 (人権)

- ◇ 人権意識の醸成についても75%程度の肯定的な評価にとどまっており、昨年度よりも肯定的な評価が5%程度低下した。引き続き3年計画で人権意識・公共心・道徳心を養う教育を行う。

④ 項目 10・12・14 (進路指導・学校方針)

- ◇ 概ね80%を超える肯定的な評価を得ている。これに慢心することなく、日々の教育活動においても的確な対応で保護者にとって安心できる学校環境の整備に引き続き努める。

令和6年度 学校教育 自己診断アンケート集計（教職員）

	診断内容	そう思う	どちらかという そう思う	どちらかという そう思わない	そう思わない
1	年間を通じた教育計画の作成にあたり、教職員で話し合っている。	52.9%	41.2%	5.9%	0.0%
2	教育活動には、他の学校にない特色がある。	82.4%	17.6%	0.0%	0.0%
3	教育課程の編成にあたり、学習指導要領の趣旨が授業に生かされている。	41.2%	52.9%	5.9%	0.0%
4	生徒が興味関心を持てるような授業の充実が図られている。	58.8%	35.3%	5.9%	0.0%
5	生徒の実態に即し、創意工夫した総合的な探求の時間を実施している。	52.9%	35.3%	11.8%	0.0%
6	カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている。	52.9%	35.3%	11.8%	0.0%
7	生徒に問題行動が起こった時、組織的対応に努めている。	76.5%	23.5%	0.0%	0.0%
8	生徒指導において、家庭との協力・連携、必要に応じて警察・少年サポートセンター・子ども家庭センター等の関係諸機関との連携に努めている。	82.4%	17.6%	0.0%	0.0%
9	生徒指導方針の共通理解と、それに即した丁寧な指導が行われている。	52.9%	47.1%	0.0%	0.0%
10	生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じた進路選択ができるよう情報提供を行っている。	58.8%	41.2%	0.0%	0.0%
11	学校行事が生徒にとって魅力あるものとするために、工夫・改善を行っている。	58.8%	41.2%	0.0%	0.0%
12	施設設備の有効活用に努め、部活動の活性化について工夫している。	47.1%	52.9%	0.0%	0.0%
13	教育活動において、生徒に社会規範や市民道徳を守る意識が育まれる機会をつくるよう配慮している。	58.8%	41.2%	0.0%	0.0%
14	人権尊重に関する様々な課題や指導方法について、全教職員で話し合っている。	41.2%	41.2%	11.8%	5.9%
15	障害者理解を深め、ノーマライゼーションの理念に基づく社会を築く資質を養うことができるよう工夫している。	41.2%	47.1%	11.8%	0.0%
16	LGBT Aといった性の多様性への理解を持ち、偏見差別のない社会を目指すよう工夫している。	29.4%	58.8%	11.8%	0.0%
17	本校生徒は、全体としては態度よく集中して授業を受けている。	64.7%	29.4%	5.9%	0.0%
18	本校生徒の多くは、レポート・課題等を期限を守り提出している。	52.9%	47.1%	0.0%	0.0%
19	本校生徒の多くは、自分の将来や進路について考えている。	47.1%	47.1%	5.9%	0.0%
20	本校生徒は、校則や決まりをよく守り、規則正しい生活を送っている。	52.9%	47.1%	0.0%	0.0%
21	本校生徒は、校外学習や文化祭等の学校行事に積極的に参加している。	76.5%	23.5%	0.0%	0.0%
22	本校生徒は、生徒会・クラブ活動に積極的に参加している。	58.8%	41.2%	0.0%	0.0%
23	本校の教育理念や学校運営についての考え方が教職員に浸透している。	52.9%	41.2%	5.9%	0.0%
24	各分掌が学校運営のなかで重要な役割をはたしている。	58.8%	35.3%	5.9%	0.0%
25	職員会議等、各会議が、情報交換と課題検討の場として学校運営に生かされている。	41.2%	47.1%	5.9%	5.9%
26	本校の教職員は服務規律への自覚が高い。	52.9%	41.2%	5.9%	0.0%
27	事故、事件、災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、役割分担が明確化されている。	52.9%	41.2%	0.0%	0.0%
28	学校生活の場として、生徒がゆとりのある教育環境の整備に努めている。	47.1%	41.2%	5.9%	5.9%
29	施設・設備の充実に向け、日常的に点検や管理され改善が行われている。	41.2%	47.1%	11.8%	0.0%
30	研修は、教育実践に役立つような内容となっている。	11.8%	58.8%	23.5%	5.9%
31	学校内で他の教員の授業を見学して、授業方法等について検討する機会がある。	52.9%	47.1%	0.0%	0.0%
32	学籍簿等公簿類の記入、点検が適正に行われている。	64.7%	35.3%	0.0%	0.0%
33	個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立されている。	52.9%	47.1%	0.0%	0.0%
34	中学校との連携の機会を設け、教育活動全般に生かしている。	64.7%	35.3%	0.0%	0.0%

- 教職員アンケートからの分析

- ① 項目 1～34（教育活動・学校運営）

- ◇ 概ね肯定的で前向きな評価がされている。教員が意欲的に様々な物事について考え、生徒の成長につながる取り組みを行っていると考え。しかし、現状に満足・拘泥することなく常に改善策などを考え、生徒にとって最適な環境を提供できるようにする。
- ◇ 項目 5 の総合的な探究の時間のありかたについて、概ね好意的な意見ではあるものの約 3 割弱の教員が改善の余地があるとの見解を示している。これについて教員間で情報交換を行い、どのような観点からの意見であるのかを精査し、教育の質向上につなげる必要がある。